

★学校教育目標 「未来を創造する子」 ◎自ら考え学ぶ子（重点目標） ○思いやる心をもち共に生きる子 ○健康でたくましい子		★重点計画の概要	
★目指す学校像（ビジョン）		日野市第3次学校教育基本構想に基づき、学校経営目標を「みんなに居場所や出番がある学校」とし、「いのち」を守る・対話でつながる・未来を創造する児童を育む。	
【めざす児童・生徒像】	◎未来を創造する子：「創造力」「対話力」「自己有用感」 ○自ら考え学ぶ子（重点目標）：「基礎・基本となる力」「課題発見解決力」「表現力・発信力」 ○思いやる心をもち、行動する子：「豊かな感性・創造性」「人間関係形成力」「自己肯定感」 ○健康でたくましい子：「心身ともに健康な体・行動力」「社会貢献力」		
【めざす学校像】	みんなに居場所や出番がある学校		
【めざす教師像】	○すべての“いのち”を守り、育む教師 ○子供一人一人を大切にしたい温かい学級をつくる教師 ○地域をステージにした、主体的に対話的な深い学びを展開できる教師 ○特別支援教育の専門的な知識や技能を身に付けた教師		

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
いのち	自分自身を大切に、人の気持ちを考え、優しさと思いやりの心をもち行動できる児童の育成。	様々な人と関わる体験を重ねることにより、互いに思いやりや助け合う態度を育み、はじめをせず、自他の命や多様性を尊重し、自己肯定感を高める教育活動を実践する。	特別な教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間を中心に、児童が互いの存在をあたかく認め合い、明るく自信をもって自分を表現していく教育活動を行う。	3	4 学期に1回以上「いのち」をテーマにした、児童の自己肯定感が高まったりする授業に取り組んだ教員が90%以上	4	4 「自分や周りの人を大切に生活しようとする気持ちが高まった」と答えた児童が90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人との関わりを大切に自他を尊重する気持ち、周りの人達との協働の精神を培うことが重要である。小中連携をして自己肯定感を育てていきたい。</li> <li>・児童の言葉遣いが気になることがある。穏やかな様子ときには丁寧な言葉遣いができ、態度と言葉遣いは運動しているようだ。引き続き注意していきたい。</li> <li>・人との関わりを第一歩として「挨拶」を児童同士、来校者、地域の方々へ広げ、「挨拶の輪」を形成してほしい。</li> <li>・音楽集会等、表現活動が日常的に取り入れられているという話があり、児童たちの豊かで自由な表現がしやすい環境になったと感じた。6年生の総合的な学習の時間では、児童が自由に発想し、意見を交わしている姿を見ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年や全校の教育活動において、児童同士が対話や交流、協働することを通して、明るく自信をもって自己表現する機会を増やしてきた。そのため、児童が友達の思いやりや優しさに触れ、自他を大切にしたい言動が見られるようになってきた。</li> <li>・来校者や保護者への挨拶は自信がないため声が小さく会釈がない場面がある。挨拶や返事、言葉遣いはよい人間関係づくりの基本となるため、指導を続けていく。</li> </ul>
					3 学期に1回以上「いのち」をテーマにした、児童の自己肯定感が高まったりする授業に取り組んだ教員が80%以上		3 「自分や周りの人を大切に生活しようとする気持ちが高まった」と答えた児童が80%以上		
					2 学期に1回以上「いのち」をテーマにした、児童の自己肯定感が高まったりする授業に取り組んだ教員が70%未満		2 「自分や周りの人を大切に生活しようとする気持ちが高まった」と答えた児童が70%以上		
					1 学期に1回以上「いのち」をテーマにした、児童の自己肯定感が高まったりする授業に取り組んだ教員が70%未満		1 「自分や周りの人を大切に生活しようとする気持ちが高まった」と答えた児童が70%未満		
学び	日野市第3次学校教育基本構想に基づく教育活動を行い、みんなに居場所や出番のある学校をつくる。	一律一斉の学びから、自分を知り相手を知り、自分たちで考え、語り合いながら生み出す学び合いと活動を実践する。	校内委員会、特別支援コーディネーター、いじめ対策委員会、スクールカウンセラー等と連携し、組織的ないじめの未然防止、早期発見、早期解決を図る。生活アンケート（4月、9月）とふれあい月間のいじめアンケート（6月、11月、2月）を行い、気になる児童への丁寧な聞き取りと、全職員での早期対応を行う。	3	4 全員の教職員が、いじめアンケートの丁寧な聞き取りと分析、対応を行った。	4	4 友達にいじめや意地悪なことをせず、仲良くすることができた児童が90%以上。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童会を中心とした縦割り班活動の工夫や学校の相談機能の組織化が、校内にいじめのない風土をつくることと思う。</li> <li>・「思いは見えぬが、思いやりは見える」とよく言われる言葉である。いじめ対策には大切なことだと思う。</li> <li>・仲間外れという場面を見かけた際に理由を聞いてみると、「こういう嫌なことをされた。」「嘘をつかれた。」など単純に割り切れない児童の関係が見えた。解決に至らないまでも、今後もしっかりと話を聞く環境をつくっていくと考えている。</li> <li>・学級という集団の中でトラブルが起きるのは当然だと思う。児童は学校では頑張ってしまったらうしろ、教員の負担を考えると学校だけで解決することも難しいと想像する。いじめ防止や親子のふれあいについて、保護者もきめ、改めて学ぶ機会があっても良いと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ対策委員会の組織を生かし、不登校や登校しぶり、いじめ等の未然防止、早期発見、早期解決につながる迅速な動きがあった。今後はさらに児童のSOSに早期に気づき、具体的に対応することができるようになる。</li> <li>・学校教育の特徴である「集団性」を高めるために、児童の表現や対話の場を増やし「集団の場」を楽しませ、多様性を認め合い、個性や対人性を伸ばしていく。また、保護者やPTAの活動等の機会を生かして、保護者同士のつながりや地域の児童を共に育てる機運を醸成する。</li> </ul>
					3 いじめアンケートの丁寧な聞き取りと分析、対応を行った教職員が95%以上。		3 友達にいじめや意地悪なことをせず、仲良くすることができた児童が80%以上。		
					2 いじめアンケートの丁寧な聞き取りと分析、対応を行った教職員が90%以上。		2 友達にいじめや意地悪なことをせず、仲良くすることができた児童が70%以上。		
					1 いじめアンケートの丁寧な聞き取りと分析、対応を行った教職員が90%未満。		1 友達にいじめや意地悪なことをせず、仲良くすることができた児童が70%未満。		
健康	心身共に健全な行動力・体力の向上を図り、児童の健康を増進する。	体を動かす楽しさ・心地よさを味わわせる取り組みを充実させることにより、生涯スポーツの態度を養うとともに、健康で安全な生活を送るための資質・能力を育む教育活動を実践する。	パワーアップタイム（年3回）と、中休み、週1回のロング屋休み等日常的な運動遊びを通じて、スポーツに親しみ健康な子を育てる。	4	4 授業や家庭内での対話的活動を通して、児童の課題解決力・表現力の向上に取り組んだ教員が90%以上	4	4 「自分の考えをもち、進んで話すことができた。」と答えた児童が90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの身近な環境にまずは目を向け、一律一斉の学びから課題解決型の対話的活動はとても良い試みであり、児童の主体性が育つと思う。</li> <li>・児童が積極的に対話的活動をしており、グループ学習の成果を感じている。</li> <li>・畑、芝生・ヒートアップ整備など、保護者や地域の方も参加して取り組むテーマがあったのはよかった。6年生からは主体的に「PTAと協力して地域とのイベントをやりたい」という声があり、実際に意見交換をすることができた。また、地域のイベントで児童たちが積極的に活動する姿も見られ、日々のPTAや地域の活動が児童たちに刺激になっていることを実感した。学校だけでなく、家庭や地域の活動の中にもたくさん学びがあることに気づいてもらっているのではないかとと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度まで校内研究で取り組んだ対話的な活動を生かし、今年度から生活科、総合的な学習の時間にて「互いに認め合い、安心して表現する児童の育成」について研究をしている。児童が外野に目を向け、地域に出て、また、五感を使って感じ、考えたことを表現する活動を各学年で行っている。その成果として、児童は地域の人に見守られて生活していることに安心と感謝の気持ちをもっている。さらに、高学年では地域に貢献する活動を取り入れていきたい。</li> <li>・教員が児童一人一人の学習状況を適切に把握し、児童が自分に合った学び方ができるように働き掛けている。欠席した児童への個別の対応も継続する。</li> </ul>
					3 授業や家庭内での対話的活動を通して、児童の課題解決力・表現力の向上に取り組んだ教員が80%以上		3 「自分の考えをもち、進んで話すことができた。」と答えた児童が80%以上		
					2 授業や家庭内での対話的活動を通して、児童の課題解決力・表現力の向上に取り組んだ教員が70%以上		2 「自分の考えをもち、進んで話すことができた。」と答えた児童が70%以上		
					1 授業や家庭内での対話的活動を通して、児童の課題解決力・表現力の向上に取り組んだ教員が70%未満		1 「自分の考えをもち、進んで話すことができた。」と答えた児童が70%未満		
地域	地域とつながる教育活動を通して自己有用感を味わわせ、社会の一員としての自覚と実践力の育成を図る。	地域参画型の教育活動や地域人材を活用した体験学習等、地域をステージとした学びを充実させ、保護者・地域と共に関わりが広がっていく環境をデザインする。	総合的な学習の時間や生活科等、SDGsカレンダーに基づき教科横断的に学びの充実を図り、持続可能な社会の実現に向けて地域と連携して教育活動に取り組む。 ・1・2年生は、地域の方々から生き物や学級園での植物との触れ合い等について学び、学習のまとめを発表する。 ・3・4年生は、地域の方々から生き物や学級園での植物の育て方等について学び、学習のまとめを発表する。 ・5年生は、地域の方々から田植え作業の流れを学び、実践、学習のまとめを発表する。 ・6年生は、地域の課題を知り自分たちでできることを考え、活動することで地域愛を育み、地域の方々へ発信する。	2	4 地域人材と連携を図り、自然体験や稲作体験、学年園活動に取り組んだ教員が90%以上	3	4 「自然や植物について地域の方と一緒に学び、学んだことを地域や家庭へ発信できた。」と答えた児童が90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年ごとに課題に取り組み、成果を上げているように見受けられた。地域に専門家がたくさんいることは滝小の強みである。これからもコミュニティ・スクールとして、たくさんの方が関わられることを望む。</li> <li>・児童への指導の模範となるよう、教員が実践して見せることが大切。教育活動の中でも特に地域と連携した活動は、登年度以降のことも考えて引継ぎや作業を行ってほしい。</li> <li>・地域と連携することが目的化しないように、児童の姿を見ることが大切だと思う。</li> <li>・コミュニティ・スクールという形になり、試行錯誤しながら定期的に委員会が開かれ、学校と地域の様子が見えることが、一つの重要な要素であったと感じた。来年度はここを昇進し、更に具体的な目標を立てやすくなるのではないかと。希望としては、ぜひ一部の教職員以外の皆様にも地域に飛び出して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年が生活科、総合的な学習の時間、各教科にて、地域や地域の人とつながることのできる児童が経験を通して学ぶことができた。また、次年度以降も地域人材を効果的に活用していくことができるように、各学年のリストを作成したため、次年度の学習活動の参考にしたい。</li> <li>・コミュニティ・スクールを生かした地域連携を更に深めるために、各教職員の意識を高めていくこと、保護者や地域へのコミュニティ・スクールについての理解啓発を図ることを進めていく。</li> </ul>
					3 地域人材と連携を図り、自然体験や稲作体験、学年園活動に取り組んだ教員が80%以上		3 「自然や植物について地域の方と一緒に学び、学んだことを地域や家庭へ発信できた。」と答えた児童が80%以上		
					2 地域人材と連携を図り、自然体験や稲作体験、学年園活動に取り組んだ教員が70%以上		2 「自然や植物について地域の方と一緒に学び、学んだことを地域や家庭へ発信できた。」と答えた児童が70%以上		
					1 地域人材と連携を図り、自然体験や稲作体験、学年園活動に取り組んだ教員が70%未満		1 「自然や植物について地域の方と一緒に学び、学んだことを地域や家庭へ発信できた。」と答えた児童が70%未満		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。